

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	令和6年度「小諸ワイン」ブランド化事業
事業主体 (連絡先)	小諸市 小諸市相生町 3-3-3 農林課 0267-22-1700
事業区分	(6) イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,301,956 円 (うち支援金 : 2,641,000 円)

事業内容

- ①KOMORO WINE プロモーション企画
特別トークセッション
第一部「ワインから広がる小諸の楽しさ」
第二部「ワイングラスの話」
第三部「ワインとフードのペアリング企画」
- ②KOMORO WINE DAYS 2024 春
- ③KOMORO WINE DAYS 2024 秋

以上 開催しました。



KOMORO WINE プロモーション企画
特別トークセッション

【目標・ねらい】

- ①小諸ワインのブランド化
②小諸ワインの地域内消費・地域理解促進
③小諸産農産物のPR及び情報発信

事業効果

- ①KOMORO WINE プロモーション企画 ※③と同時開催
「おいしいふード」大使 鹿取みゆき氏によるワイングラスセッション
→ 参加者 2000 人
→ リーデル社との連携協定を活用し、小諸ワインの楽しみ方を提案他地域との差別化を図り、参加者へブランド化をアピールした。
- ②KOMORO WINE DAYS 2024 春
- ③KOMORO WINE DAYS 2024 秋 ※①と同時開催
→ 参加者 : 2000 人 / 2000 人
→ 内外から多くの参加者が訪れ、小諸ワインの魅力を知ってもらうとともに、地域内消費・地域理解を広げることができた。

※自己評価【B】

【理由】

リーデル社や鹿取氏の協力のもと、これまで以上に、ワインを愛する皆さんに魅力を伝え、小諸を訪れてもらうことができたとともに、小諸ワインの魅力や生産者、産地としての小諸が、広く認知される機会となったため。

今後の取り組み

小諸ワイン 50 周年を盛り上げた昨年度から、小諸ワインの魅力をより深く伝える、他地域との差別化を進めることを今年度の目標とした。一定の成果を上げることができたため、今後は、千曲川ワインバレーの周辺地域と連携し、ワインツーリズムを推進し、小諸や千曲川ワインバレーが「選ばれるワイン産地」となるように事業を継続展開していく。

事業名	佐久市地域防災マップ作成コーディネート事業
事業主体 (連絡先)	佐久市 (0267-62-3008)
事業区分	(4)安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,050,000円 (うち支援金: 4,840,000円)

事業内容

昨年度からの継続事業であり、今年度で、予定していた令和元年東日本台風で被害のあった地域を中心に作成していた全130区が完成した。

今年度からの新たな取り組みとして、学習会において地域防災マップにおける避難経過及び災害時に想定される周囲の状況を考え、いつ・どのタイミングでどこへ避難するか、家庭・個人用の防災マイタイムラインを参考にし、参加者に自分事として避難行動を検討してもらうことを行った。

完成した“地域防災マップ”は各区に配布し、公会場などへの掲示や地域の防災訓練などでの活用を呼びかけた。

事業効果

住民が主体となった地域防災マップ作りを通じて、地区の災害時避難行動の指針が形成されただけでなく、事業の中で平時から防災に対する備えや災害時の避難行動について意見交換が行われ、地域独自の防災活動体制づくりが促進された。

また、昨年度までに地域防災マップを作成した地域などではマップを活用した防災訓練が開催されるなど、地域の防災に対する気運の高揚、地域の防災力の向上に繋がった。

地域防災マップを活用した訓練実施区
R4年度 15区 R5年度 26区 R6年度 33区

今後の取り組み

- ・“地域防災マップ”を作成した地域において、防災訓練や平時からの避難行動の指針にしてもらえるよう、また、新たな情報をマップに書き込んでいただくことを出前講座などで呼びかけ、作成したマップが地域で継承されて行くよう支援を図っていく。
- ・地域の消防団と区が地域の危険箇所を確認・共有する「さくの絆作戦」等とも結びつけ、マップが活用されるような仕組みづくりを推進し、過去に発生した災害箇所の把握及び今後発生しうる災害に備えた地域の防災体制の整備・強化に繋がってもらえるようにする。



【学習会の様子】

【目標・ねらい】

- ①地域自らが作る災害時の避難行動に役立つ防災マップの作成。
- ②マップ作成を通じた地域防災に対する意識の高揚、地域の防災活動体制強化。
- ③地域防災力の向上。

※自己評価 **【A】**

【理由】

- ・住民主体で地域の防災対策を議論する場が創生できた。
- ・マップに書き込まれる情報がより多く、多岐にわたった。
- ・マップの作成済の地域において防災訓練などで活用されている

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	生物多様性保全活動検証事業
事業主体 (連絡先)	佐久市役所 環境部 環境政策課 環境保全係 (佐久市中込 3056 電話: 0267-62-2917)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,063,600 円 (うち支援金: 4,050,000 円)

事業内容

市内の森林内において植物の種類の減少や下層植生の低下が見られることから、植物の種類や下層植生の維持回復を図ることで、持続可能な森林生態系の保全及び生物多様性の保全を目指す

1 専門家会議

令和6年5月23日(木)、令和6年9月18日(水)、令和7年1月29日(水) 計3回開催

2 コーディネーター 10回の打ち合わせ等

3 調査実験業務 報告書の提出等

4 啓発活動

講演会「佐久の自然を考えよう」

第1回 参加者 93名 第2回 参加者 105名

出前講座「まちづくり講座」

中学生、高校生を対象に計2回実施

自然観察会「鹿革のクラフト体験講座」実施



【植生回復柵を使った調査】

【目標・ねらい】

- ① 植物を回復させるには
- ② 災害につながる可能性は
- ③ シカを捕獲するには
- ④ 生物多様性に対する認知度
- ⑤ 生物多様性に対する理解度

事業効果

- ・令和6年度は植生回復柵を12地点設置し、植物の回復状況の確認を行い、ほぼ全ての柵内で植被率の回復の兆しがみられた。また、植生回復柵を設置することでシカの通り道を変えることができると推定された。
- ・複数年にわたり植生回復柵を設置することは、植被率の回復に有効であると考えられる。このことから次年度以降も柵を設置し、経過観察をしていく。
- ・急斜面で、シカの痕跡が濃いシカ道があり、草丈の成長が悪い場所では雨が降ることで、土壌が流れる可能性があるかと推定された。
- ・シカの捕獲について、これまでの調査結果から、望月高原牧場に入入りするシカの行動パターンが分かったので、シカの移動ルートに沿って複数罠を設置する。メスの成獣を出産期前に捕獲する。猟友会で協力して、一斉に罠をしかけ、シカを追い込み捕獲すること等が効果的ではないかと考え、次年度以降に猟友会と連携しながら捕獲方法を検討していく。
- ・地元説明会のアンケート調査
生物多様性に対する認知度 100% (目標 70%以上) 【昨年度 69%】
生物多様性に対する理解度 57% (目標 50%以上) 【昨年度 30%】

※自己評価【B】

調査実験の結果から、複数年植生回復柵を設置することが植被率の回復につながる可能性があること、望月高原牧場に入入りするシカの行動が分かったこと。地域住民の生物多様性に対する認知度・理解度が予想以上に向上したこと。

今後の取り組み

本事業で得られた調査データや事業効果(考察)を、市の関係各課に情報共有する。例えば、耕地林務課へは、協和のシカの行動を一つのモデルとして、シカの捕獲につながることを期待したい。また危機管理課へは、土壌の流出の可能性が確認された環境について共有する。

令和7年度以降については、同規模の事業は実施しないこととなっているが、植生回復柵の設置を継続し、植物調査を実施していく予定である。その際、直営及び市民参加型で実施することで、啓発活動の一環という位置付けで調査に取り組むことを考えている。実際に、今年度2回に渡って実施した講演会では、市民の他に近隣市町村からの参加者も多く、佐久広域で生物多様性の事業に対する関心の高さが伺えた。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	フードシェアによる中食&飲食店におけるフードロス削減事業
事業主体 (連絡先)	佐久市企画部情報政策課 佐久市中込 3056
事業区分	(5)環境保全、景観形成
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,980,000 円 (うち支援金 : 1,584,000 円)

事業内容

フードシェアリングサービスであるスマートフォンアプリケーションを導入・活用促進するため、以下の事業を実施。

1. 加盟店募集支援事業
佐久市内の中食&飲食店を中心にフードシェアリングサービスへの募集営業。
2. 加盟店利用サポート支援事業
アプリケーション操作支援や商品の見せ方等、出品サポート支援。
3. 広告宣伝事業
タブロイド紙への広告掲載、市ホームページ、市報等での広報

事業効果

市を挙げてフードシェアリングサービスの導入・活用を促進することで、食品ロス削減という社会課題解消に加え、地域活性化と持続的発展に貢献。

申込店舗数 : 27 店舗
登録ユーザ数 : 864 人
食品廃棄処分量削減 : 0.3t

今後の取り組み

登録ユーザ数の増加と食品廃棄処分量削減量の拡大を目指し、事業を継続・改善していく予定。

【広報活動の強化】市報、市公式ホームページ、SNS 等を活用し、フードシェアリングサービスの認知度向上を図る。特に SNS では、加盟店の紹介や利用方法の解説動画を積極的に配信し、市民への情報発信を強化する。

【コークッキング社との連携強化】フードシェアリングアプリを提供するコークッキング社と連携協定を結んでいる強みを活かし、同社と協力して利用促進キャンペーンの実施を検討する。また、加盟店へのサポート体制強化についても、同社と連携して取り組む。



【加盟店舗募集広告】

【目標・ねらい】

- ①市内における食品廃棄量の削減
- ②市内店舗の売上&利益拡大
- ③市内中食・飲食店の認知度向上
- ④市民満足度の向上

※自己評価【B】

【理由】目標としていた 27 店舗の登録申込を達成し、市内におけるフードシェアリングサービスの基盤を構築できたものの、登録ユーザ数と食品廃棄処分量削減量は目標に届かなかった。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小海町ゼロカーボン・ワーケーション基盤整備事業
事業主体 (連絡先)	小海町 南佐久郡小海町大字豊里57-1
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,500,000円 (うち支援金: 3,600,000円)

事業内容

- ① ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会運営
ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会において、町内外の多様な意見交換を行い、実証実験の検証などを図った。
- ② ゼロカーボン・ワーケーションの実証実験
小海町ゼロカーボンの取組み理解のため、実証実験を実施。新たなターゲットとして環境教育に興味のある親子に対して実施。 1回開催 参加者: 13名
- ③ 町民普及
町民の生活に関係の深い廃棄野菜から新たな素材を作るといったゼロカーボンの取組みに興味を持ってもらえるようなワークショップを実施
- ④ なぜ今、ゼロカーボンの取組みが必要なのかを伝えることで、小海町におけるワーケーションのさらなる推進や今後、登録を予定している小海町のJクレジットの販売につなげるため、外部に向けたイベントを実施



【協議会イベントの様】

【目標・ねらい】

- ① 町民へのゼロカーボン周知
- ② 事業推進による関係人口増加
- ③ 事業を通じての関係企業数増加

事業効果

- ①協議会を運営し多様な主体と事例を共有しながら新たな取組みを検討し、参加者のゼロカーボン取組みへの意識醸成がされた。
- ②実証実験により、ゼロカーボンを意識した体験やワーケーション利用が延べ263人あった。
- ③町民が球温暖化等の問題を身近に感じる機会の提供をおこなうことで、ゼロカーボンに対する理解度の向上、意識醸成がなされた。
- ④小海町におけるゼロカーボンの取組みを広く町内外に発信することができ、企業との連携も深まった。

※自己評価【 B 】

【理由】

協議会運営を通じて、町外や地元民へのゼロカーボンの取組みをPRし多様な主体に参画いただいた。Jクレジットに対する理解度の向上、販売意欲の醸成に課題が残るため。

今後の取り組み

ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会の活動では、引き続き多様な主体と意見交換を行いながら、町民や提携先企業とも連携し、小海町でワーケーションをする意義や、小海町ならではのワーケーションの模索、Jクレジットの販売を通じたゼロカーボンの取組みの協働、また、町民参加者が核となり、地域住民への波及効果に繋がることを目的の一つとしているため、より町民の意識が高まるようなゼロカーボンの取組みに対するイベント等を実施し町民1人1人の意識醸成、削減効果を上げていく取組みを継続していく。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	女神湖畔の新シェアオフィスを拠点とした地域体験プログラム創出事業
事業主体 (連絡先)	立科町企画課地域振興係 (電話：0267-88-7315)
事業区分	(6) オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,750,000 円 (うち支援金：2,200,000 円)

事業内容

地域として企業の合宿型ワーケーションの開催誘致を行い、受入実績を増やしてきたが、企業からは、充実したワークスペースの有無だけではなく、「地域体験プログラム」の存在が求められてきたことから、地域体験プログラムを充実させるため、昨年度造成したプログラムについては磨き上げを行い、今年度は新規プログラムの創出を行った。

併せて、高原エリアのシェアオフィスで仕事をしながら、地域体験プログラムなどを行う新しい地方滞在のスタイルのあり方について地域として理解を深め、町全体で開催を誘致する機運を醸成することを目的として、カンファレンスイベントを実施した。



【カンファレンスの様子】

【目標・ねらい】

- ① 地域体験プログラムの創出
- ② 地域体験プログラムの磨き上げ
- ③ 地域として気運の醸成

事業効果

- ・地域体験プログラムの創出
新たに高原エリアの事業者において、プログラムを創出し、有効性を利用者から確認することができた。
- ・既存プログラムの磨き上げ
令和5年度創出プログラムは、体験企業からの意見を参考に内容の見直しと修正を行った。修正した内容を企業の方々に体験してもらい高評価を得ることができた。
- ・カンファレンス実施による取組推進の機運拡大
地域内外から参加者が集まり、有識者講演のほか地域プレイヤーからの発表もあり、地域全体で取り組みを推進している機運を作りあげることができた。

※自己評価 【 B 】

【理由】
計画のとおり、目標設定を達成することができたことで、一定の成果が得られたため。

今後の取り組み

- 昨年度から今年度に創出した、企業が当町女神湖周辺において実施するオフサイトミーティングの際に提供する「地域体験プログラム」を継続的に提供し、当エリアの誘客や新しい滞在形式の一つとして周知を行い、新シェアオフィスの利用向上に結び付け、地域全体として女神湖畔の新シェアオフィスを活用していく機運の醸成を図っていきたい。
- 住民でありながら、地域の事業者でもある方々を「地域プレイヤー」として位置づけ、持っている技術、物語、思いをひとつの価値として提供する「地域体験プログラム」の充実を図ること、地域振興に結び付けたい。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「上手な医療のかかり方」広報事業
事業主体 (連絡先)	佐久広域連合 (事務局庶務課施設係 0267-62-7721)
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	977,080 円 (うち支援金: 781,000 円)

事業内容

「上手な医療のかかり方」を考えるきっかけづくりとするため、市町村、医療関係者、地域住民と連携して普及啓発事業を実施した。

- ・ 広報ポスターの制作、配布・掲示
- ・ 広報番組の制作、放送・放映・配信
- ・ 佐久地域保健補導員等との連携
- ・ 上手な医療のかかり方認知度調査



【広報ポスター】



【保健補導員学習会の様子】

事業効果

- ① 広報ポスターを制作し、佐久圏域の公共施設、医療機関、宿泊施設、一般事業所など 800 箇所へ配布した。また、佐久地域の“実話”としてストーリー性を持たせた広報番組を制作し、ケーブルテレビ、医療機関待合モニター、YouTube 等で放送、放映、配信した。令和5年度からの継続事業として制作してきたこれらの広報素材は市町村や消防本部が行う住民向け講習会等で活用され、普及啓発の強化が図れた。
- ② 佐久地域における令和6年の救急搬送人員のうち軽症者の割合は 39.8%で前年より減少した。また、#8000、#7119、休日小児科急病診療センター、平日夜間急病診療センターなどの制度利用に関する広報を継続的に行い、診療時間外における大きな病院へのウォークイン患者が減少する傾向が見られた。

【目標・ねらい】

- ① 「上手な医療のかかり方」普及啓発
- ② 適切な受診行動 (= 行動変容) の促進

※自己評価【B】

【理由】

- ・ 市町村、医療関係者、地域住民と連携することにより、佐久地域における「上手な医療のかかり方」を普及啓発することができた。

今後の取り組み

令和5年度において制作した「佐久地域上手な医療のかかり方」ハンドブック及び動画、令和6年度において制作した「上手な医療のかかり方」広報ポスター及び広報番組を活用しながら、今後においても継続して行政・医療機関・地域住民との連携により「上手な医療のかかり方」の理解を深める取組を実施し、佐久地域における適切な受診行動 (= 行動変容) を促していく。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「星空」「鉄道」「街道」佐久地域魅力発信事業
事業主体 (連絡先)	佐久広域連合 (佐久市取出町 183 番地)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,820,662 円 (うち支援金 : 1,431,000 円)

事業内容

1 佐久地域星空探訪ツアー

川上村出身の JAXA 油井宇宙飛行士が宇宙飛行士を目指す契機となった佐久地域の星空について親子で学び、その魅力を地域内外に SNS により情報発信し、地域認知度の持続的向上と誘客に繋げるため、星空関連施設の見学や星空観測会等を小学校4～6年生の親子を対象に実施した。

2 佐久地域ふるさとフォトコンテスト

「あなたが伝えたい、佐久地域の魅力」について表現した写真を募集し、77名から635点の応募があり、入賞作品36点は今後において佐久広域連合や市町村のホームページ、観光パンフレット、広報誌等に活用し、その魅力を情報発信するとともに公共施設等における巡回展示を行った。

3 佐久地域観光プロモーション

市町村や観光協会・商工会等と連携し、首都圏・北陸圏・東海圏から佐久地域への誘客や周遊を促すための観光 PR や特産品販売、観光に関するアンケート調査等を実施した。



左 : 佐久地域星空探訪ツアーチラシ
右上 : 佐久地域 13 酒蔵試飲
右下 : 入賞作品展示

【目標・ねらい】

- ①佐久地域の地域資源を住民が学び、誇りを持ち情報発信すること
- ②観光客の価値観や行動を通過型から滞在型へ行動変容を促すこと

事業効果

1 星空探訪ツアーを通じて佐久地域は全国有数の星空観測の好適地として年間を通して星空を楽しめるほか、星空関連施設が数多くあること、また油井宇宙飛行士のように「好き」を継続して努力する大切さを子ども達は学ぶことができた。

2 ふるさとフォトコンテストへの応募作品総数は前回(令和4年度)と比べて減少したが、新たに特別部門として「星空」「鉄道」「街道」の各部門を設けたことにより、これまでに応募の少なかったジャンルの作品を効果的に収集することができた。

3 3圏での観光プロモーションを通じて来場者の行動変容を促し、佐久地域への誘客促進に繋げることができた。また、観光に関するアンケート調査結果を今後における広域観光施策の参考となるよう市町村と情報共有した。

※自己評価【B】

【理由】

佐久地域の住民に地域資源について学ぶ機会を創出するとともに今回の事業で得られた成果や内容を地域内外に向けて活用、情報発信していくことができたため。

今後の取り組み

1 佐久地域における地域資源である「星空」「鉄道」「街道」について住民が学び、誇りを持てるように佐久広域連合広報誌やホームページ等を通じて情報発信をするとともに引き続き住民参加型の企画を検討していきたい。

2 ふるさとフォトコンテスト入賞作品は令和7年度において佐久広域連合広報誌やリニューアルを予定している「佐久地域広域観光ガイド 信州佐久平」に向けて活用するほか、観光プロモーションにおける告知チラシ、会場ポスター、横幕等へ積極的に活用することにより地域内外に向けて広く佐久地域の魅力を情報発信していく。

3 観光プロモーションは引き続き市町村等と連携していくが、これまで未実施の場所における実施も研究していきたい。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	高峰高原における哺乳類調査及び啓発活動事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人浅間山麓国際自然学校 0267-23-3124
事業区分	環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	484,185 円 (うち支援金 : 363,000 円)

事業内容

高峰高原を中心にトレイルカメラを設置し、数カ月にわたり撮影。予想通りシカがたくさん写り、安定して繁殖していることが確認された。
 生き物を見つけたらマップにシールを貼ってもらい分布・目撃の可視化を行なった。カモシカだけでなくオコジョの目撃が多いなど予想していないこともあった。
 生き物パネルを作成しビジターセンター内に展示した。来館者の多くの方にご覧いただくことが出来た。急遽だがパネルを使ってプログラムも実施した。
 スノーシューで動物の痕跡を辿るイベントは1回しか開催出来なかったが、開催した回は地域の親子7組 15名に参加していただいた。

事業効果

- ①数年前に比べて明らかにシカが増えており、健全な自然環境を保全していくための基礎的なデータが取れた。目撃はあったが真意が不明だったクマも確認された。
- ②ビジターセンターのギャラリーは入口からすぐのところであり、多くの来館者にご覧いただいた。写真や文言も分かりやすく好評だった。目撃情報マップも多くの方に参加していただき、カモシカの多さ・目撃し易さを知っていただいた。
- ③1回しか開催出来なかったが、東信地域在住の親子に参加していただき、高峰エリアの魅力や生き物のおもしろさを体感していただいた。

今後の取り組み

高峰高原の自然を保全していくために、シカの増加に伴う高山植物の食害をなんとかしなくてはならない。今回購入したカメラを使い継続して広く高峰高原内でモニタリングを行なう。今後は食害から守るために防鹿柵の設置も検討していく。全国的に高原地帯におけるシカの被害をなくした事例はほぼないが、取り組んでいる地域はあるので交流を図りながら進めていく。
 今回作成したパネルも引き続き展示していくが、小中学校の林間学校のプログラムなどでも活用して日本の生き物や自然に興味を持ってもらえるよう活動していく。
 目撃マップを見て明らかのように、特別天然記念物のカモシカが多いのが地域の特徴でもあるので、それを活かしてツアー造成や保全活動に鋭意努力していく。



【イベントの様子】

【目標・ねらい】

- ① カメラを設置し、生き物の状況を知る
- ② 来訪者に生き物について興味を持ってもらう
- ③ アニマルツアーの開催

※自己評価【B】

【理由】
 イベントの集客がふるわず当初2回を予定していたが1回になった。それ以外は計画通り実施出来た。目撃情報マップなど予想より多くの方に参加していただいた。

令和 6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「おめでとう」が行き交うウェディングでも選ばれる町へ
事業主体 (連絡先)	小諸ウェディング協会 komorowedding@gmail.com
事業区分	(1) 地域共同の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,904,964 円 (うち支援金 : 1,523,000 円)

事業内容

- 1.町の景観や施設を生かした結婚式の提案ガーデンウェディングの空間を体験するイベント「ウェディングフェス」を開催しました。
2. 地域の人へ町の魅力の再確認につながる仕掛けとして「おめでとう」が行き交う「祝福街道巡り」を実施しました。
- 3.無料相談会を実施し、これから結婚する人たちが何を求め、どんな結婚式を挙げたいと考えているのか話を聞き、実際に要望に応えながら実現しました。
- 4.県内の大きな課題でもある人口減少について、若者に魅力を感じてもらおうまちづくりを実施し、結婚式を通して、地域の魅力PRを行い、選択肢を増やすことで満足度を上げ、次世代への伝承を目指す。



【目標・ねらい】

- ① 町中ウェディングの周知
- ② 町の魅力再発見
- ③ 地域活性化
- ④ 次世代への伝承

事業効果

この事業により、佐久地域でたくさんの結婚式が実施され、若者に夢と希望をあたえ、地域が活気づき、かつ地元経済の活性化も期待できます。

・結婚式を直接見たことのない子供たちにウェディングの空間を体験してもらい「今までで一番ステキなイベントでした！」と声を頂き、来場者たちの笑顔は、輝き、周りにいる人たちにも笑顔の連鎖が広がっていました。

イベント来場数 300 名

・無料相談会を合計 20 日間実施し、合計 45 件。

・結婚式実施数 25 件

今年は種まきの1年となり、町中で多くの「おめでとう」が行き交う場面を目にすることができました。

※自己評価【B】

種まき作業はできました。話題性もあり、メディアでも取り上げてもらい、地域の集まりで「今後にも大いに期待している」と評価を頂きました。引き続き活動をし、仲間を増やしていきたいです。

今後の取り組み

アンケートや直接声を聞いたことで、この頃の傾向を把握し、「自分たちらしい結婚のカタチ」を大切にしている若者が多い傾向があることがわかりました。2025 年は、引き続き SNS やブログで、地域のウェディングを行う魅力の発信を続け、無料相談や、花嫁カフェなどのコミュニティの場を提供します。

「祝福街道巡り」や「ふるさと納税・懐古園でのフォトウェディング」の提案も強化していきます。佐久地域に愛着が生まれる仕掛けと、学生主体で作り上げるウェディングの実現も、地域と連携し実現に向けて活動予定です。市外県外やインバウンドにも発信を続け、旅とウェディングを組み合わせた体験を提供できる形も組み立てていきたいと思っています。

令和 6 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	御影用水の観光、教育、啓発推進事業
事業主体 (連絡先)	御影用水・陣屋応援隊 (小諸市御影新田 894-24 御影用水史料館内 電話 0267-25-1210)
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	762,345 円 (うち支援金: 590,000 円)

事業内容

- 1 講演会の開催
住民が御影用水と陣屋の歴史と文化を考える機会とするため、12回の講習会を実施、意識啓発と情報提供を行った。
- 2 SNS での発信
御影用水・千ヶ滝湯川用水の歴史と役割について YouTube、フェイスブックで発信した。
- 3 御影用水教本の発行
制作した御影用水教本を関係の土地改良区、用水管理委員会に配布啓発した。
- 4 啓発資料の作成
リーフレット 2,000 部及びパンフレット 1,500 部を地域住民 上流軽井沢町、御代田町住民に配布した。
- 5 史料館及び陣屋敷地内看板を整備し史跡の理解と歴史をわかりやすく説明した。
- 6 VR ゴーグルのコンテンツを作成しより現実感のある歴史資料として整備した。
- 7 小水力発電施設の視察を行い、今後の土地改良区の将来の姿を啓発した。



【目標・ねらい】

- ① 普及啓発資料の作成
- ② 講演会の開催
- ③ 史料館周辺の看板の整備

※自己評価【A】

【理由】
米作りにおける用水の重要性、維持管理の大切さが認識されるとともに貴重な歴史的資産であることが知らされた。

事業効果

- ・上流域住民には、河川と用水の違いを、放流水の浄化、ごみの投入禁止、景観の保全、立木の伐採、転落事故防止、防災（越水被害防止）の意識啓発となった。
- ・下流域住民には、用水の恩恵（米作、畑作利用）や防火用水としての役割を理解することにより、用水浚いの必要性の啓発となった。
- ・学校、図書館活動の一環として学習することにより、地域の歴史的文化財としての重要性及び将来の農業振興についての啓発となった。
- ・関係する団体及び行政機関での研修により、未来を担う後継者の育成と共に維持管理の重要性の啓発となった。
- ・一般に広く御影用水と陣屋の情報が知られ、新田米、ブロッコリー等の農業生産物や直売所の存在が知られ新たな市場の開拓となった。
- ・天領の里御影用水史料館及び長野県指定史跡御影陣屋跡への来場者（令和 5 年度来場者 289 人）が増加し観光 PR となった。
- ・天領の里御影用水史料館の令和 6 年度の入場者数が 458 人と約倍となった。

今後の取り組み

今後作製した啓発資料と VR ゴーグルコンテンツにより多くの住民に趣旨の理解を求め、用水の有用性と維持管理の重要性、さらには防災についての普及啓発を広範囲に広めて事業を実施する。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯綱山公園プロジェクト “Inspire the Park”
事業主体 (連絡先)	飯綱山公園活性化事業実行委員会 長野県小諸市菱平 3129
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,321,789円 (うち支援金: 2,421,000円)

事業内容

飯綱山公園の魅力向上のために、年間を通じて様々なイベントを実施し、特色ある観光地づくりを進めた。イベントは、市民との協働による公園づくりの体制を構築するため、地元住民や小中学生と一緒に実施し、公園づくりに対する市民の意識の醸成を図った。

- ・ワークショップの開催：通年
- ・マルシェの実施：通年
- ・カーボンニュートラルな土づくり勉強会：5月18日
- ・公園内の植栽整備：6月22日
- ・夏まつりイベント：8月17日～18日
- ・収穫体験：10月13日
- ・イルミネーションイベント：11月23日～2月28日



【イルミネーションイベントの様子】

事業効果

- ①市内の各種団体に加え、地元住民や小中学生などと共にイベントを実施したことで、協働による公園づくりの体制の基礎を構築できた。
- ②昨年に引き続き同規模のイベントを行うことで、市内外への波及効果や地域への愛着の醸成を図ることができた。
- ③飯綱山公園の年間観光客入込数（長野県観光統計数値による）の増加について、目標値である20%を大きく上回る67%の増加となり、取組により大きな成果が生まれた。

【目標・ねらい】

- ①協働による公園づくりの体制の構築
- ②新たな観光スポットとしての確立、知名度の向上
- ③市内外からの観光客の増加

※自己評価 **【A】**

【理由】

- ・年間観光客入込数が目標よりも約50%増加した。
- ・取組が多くメディアに取り上げられたことで、観光スポットとして県内に広く知れ渡った。

今後の取り組み

今年度は3年間の事業計画の2年目として、定着した市民の公園づくりに対する意識の醸成を行い、また、地元住民や小中学生などと共にイベントを実施したことで、協働による公園づくりの基礎をアップデートすることができた。来年度以降は、今年度のワークショップで生まれたアイデアを具体化し、実施していくとともに、市民が事業により主体的に関われる運営方法を取り、事業の継続性を高めていく。市民により積極的に関わってもらうとともに、ワークショップや勉強会を多く開催し、公園づくりをより身近なものに感じてもらい、「公園づくりはみんなでするもの」といった意識や、公園への愛着をより深めてもらう。2年間の経験をもとに事業の持続性を確立させていく。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	商家の自慢を観光資源に！「商都小諸ミュージアム」と「町めぐり企画」
事業主体 (連絡先)	本町区 小諸市本町2丁目2-9 北国街道ほんまち町屋館
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大(ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	936,045円 (うち支援金：748,000円)

事業内容

- 「商都小諸ミュージアム」～町屋館の歴史展示の充実
 - 商都小諸歴史パネルの作成と商家のお宝ディスプレイ
 - ・歴史パネル展示作成「商都小諸のものがたり」
 - ・「小諸商人」の等身大パネルの作成
 - その他の館内／館内見学で楽しめる要素を増やす
 - ・解説版、案内板の作成、設置
 - 概要について英文表記を入れる
- 「本町歴史マップ&町屋館案内」パンフレット発行
 - A3両面 フルカラー 発行部数 3000枚
- 「ほんまち商家のご自慢ツアー」
 - 9/22,23 豪商のまちの建物拝見ツアー
 - 10/20 江戸の町割り探訪ツアー



【展示パネル】

【目標・ねらい】

- ①まちの人が商都の歴史に対して誇りを取り戻す。
- ②それを観光資源化する。
- ③それを広く発信する。

事業効果

- ①小諸城下町は「商都の歴史」の中で歴史的建物資産を残してきたが、その歴史が伝えられていなかった。今回それについて住民の参加で掘り起こしを行い、展示物やマップとして形にすることができ、地区の歴史や誇りを伝えるものができた。
- ②「商都の歴史」を伝えるビジュアルな展示物が完成した。今後はほんまち町屋館を「商都小諸ミュージアム」として宣伝し、集客していかれるようになった。
- ③配布用のマップを作成し広く配布することで、広く本町の魅力を知っていただくことができるようになった。

※自己評価【A】

【理由】
多くの区民、市民がかかわって、とてもよい展示やマップができたと思う。それにより、今まであまり使われていなかった展示施設が観光資源化することができた。

今後の取り組み

- ・ 基本的な展示ができたので、今後は区民の協力をもらって古いものを集めるなどしてさらに展示を充実させていく。
- ・ 5月の連休の前に、「商都小諸ミュージアム」のオープンとしてプレスリリースして、オープニングイベントを行いたい。
- ・ 観光ガイド協会で積極的に城下町ツアーを宣伝していただき、「商都小諸ミュージアム」を活用していただく。英語ガイドも育成し、インバウンドの呼び込みも進める。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	介護予防住民指導者育成事業
事業主体 (連絡先)	介護予防住民指導者育成支援協議会 小諸市甲1068番地
事業区分	1-5 健康づくり支援と医療・介護サービスの充実を図る
事業タイプ	ソフト
総事業費	942,139円 (うち支援金: 730,000円)

事業内容

1. 介護予防B型住民指導士の初級・中級・上級養成講座の開催

今年度は運営スタッフの負担軽減のため初級・中級講座の開催日数を縮減し開催。初級24人、中級19人、上級18人に対し各級修了証書を交付した。

2. フォローアップ交流会の開催

講座受講生と県内各地域で活動している介護予防住民指導者との意見交換や交流を推進するためのイベントを開催し、今後の活動方法などを実体験できた。

3. 介護予防住民指導者フォーラムの開催

避けては通れない「軽度認知障害」の知識を理解し、住民指導者による介護予防の取り組みに役立てる機会を設けた。

4. 修了生が地域での介護予防サービスに、どのように取り組めるかとの疑問や相談に答えられるような支援を行った。



【第4回住民指導者育成フォーラム】

【目標・ねらい】

- ①住民主体による「通いの場」を提供、運営する住民指導士の養成
- ②フォローアップ交流会の開催
- ③住民指導者フォーラムの開催

事業効果

・地域での通いの場であるサロン等での活動者が今年度28名増加

・通所型サービスB事業教室が今年度2教室増加した。

・養成講座受講生と各市町村の実践団体で活動している指導者との交流会を開催し、117名の方が参加。

・介護予防住民指導者フォーラムは広域を超えた連帯の輪を広げるために、上小広域の東御市で開催した。県内各地の介護予防住民指導者や介護予防に興味のある住民、行政職員、医療機関の関係者、事業所代表者など145名の方が参加し交流を深めた。

※自己評価【 A 】

【理由】

今年度開催した住民指導者フォーラムは広域を超えた地域交流を目的に開催し145名の参加を得、多くの住民指導者同士の交流が深まり、悩みの解決や行動のきっかけが確認できた。

今後の取り組み

住民指導者養成講座の開催は今年度で終了するが、県内各地で活動している住民指導士の活動発表を行う交流会を令和7年度以降も開催する予定。

住民指導者フォーラムを令和7年11月に開催し、介護予防の重要性や、各地域での介護予防の取り組みなどを考え、情報共有・意見交換ができる場を設けていきたい。

この3年間で蓄積できた「介護予防B型住民指導士」育成のノウハウを活用し、Web形式の講座やYouTubeを活用した講座の開設等を検討し、今後とも介護予防住民指導者育成に務める。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ウォーキングイベント「佐久びんころウォーク」の開催に係る PR 事業
事業主体 (連絡先)	佐久びんころウォーク実行委員会 (佐久市観光協会内 TEL0267-62-3285)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,474,000 円 (うち支援金 : 1,179,000 円)

事業内容

ウォーキングイベント「佐久びんころウォーク」の開催を契機として、佐久地域の健康長寿ブランドの全国的なPRと交流人口の創出による地域全体の活性化を図った。これまで参加者を募るためにチラシ作成やネット(スポーツエントリー)から募集をしていたが、定員を満たすことがなかったため、本年度は、全国に広くPRするために、これまで実施していた広報等に加えて、公式ホームページの構築及びSNS広告を実施した。



【イベントの様子】

【目標・ねらい】

- ①佐久地域の健康長寿ブランドの全国的なPR
- ②交流人口の創出による地域全体の活性化を図る
- ③市内文化施設等の有効活用

事業効果

これまでのイベント周知方法に加えて、公式ホームページの構築及びSNS広告での情報発信をしたことで、申込者が過去最高の745名となり、佐久びんころウォークを全国に広く周知することができた。

申込者の地域別の内訳は、市内が309名(41%)、県内201名(27%)、県外235名(32%)となっている。国内最遠方は兵庫県からの参加者がおり、台湾からも団体での参加者がいた。

コース上では、市内の文化施設や健康長寿に関する場所をチェックポイントにすることで、参加者の理解を深め、各施設をPRすることができた。

会場内(あいとびあ白田)では、白田地区の特産物等の販売等を実施することで、佐久市白田地区へイベントの経済効果を波及することができた。

※自己評価【A】

【理由】これまでの定員を500名としており、定員に達することはなかったが、HPやSNS広告を利用することにより、参加者686名は、過去最多数となり、アンケートからも評価は高かった。

今後の取り組み

ホームページ構築やSNS広告等を実施することで、前回は大幅に上回る参加者を募ることができたため、今後佐久びんころウォークを開催する際には継続して、ホームページやSNS広告等から情報を発信していき、全国へ広く周知していく。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小海線沿線スタンプラリー
事業主体 (連絡先)	小海線沿線地域活性化協議会 (小諸市役所 商工観光課 観光交流係 TEL: 0267-22-1700)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,170,290 円 (うち支援金: 922,000 円)

事業内容

小海線沿線スタンプラリー

【実施時期】 令和6年7月24日から10月31日

【内容】 小海線の全31駅から3ヶ所、34ヶ所の沿線スポットから2ヶ所のスタンプを集め、アンケートに回答することで記念品が贈呈されるスタンプラリー。

スタンプラリーに参加するには、SpotTour という専用のアプリをダウンロードする必要がある。



【SpotTourのトップページ】

【目標・ねらい】

- ①小海線の利用の動機づけ
- ②沿線地域の観光誘客
- ③新たな周遊ルートの創出

※自己評価【B】

【理由】

ツアー参加者は目標に及ばなかったものの、他団体との連携により小海線の新たな活用方法や課題が見出せるなど今後の事業に生かせる収穫があった。

事業効果

昨年度の48スポットに対して、今年度は65スポットに対象を増やして実施したが、記念品を昨年度のピンバッジからステッカーに変更したため、記念品を目的に参加する人は減少した。そのような状況でもアンケートには「スタンプラリー参加のために小海線を利用した」という回答もあったことから、小海線利用に係る動機づけ、観光誘客のねらいには一定の効果があった。

令和6年度県民参加型事業「小海線アクティビティ優先車両」とも連携したため両事業のSNS等で発信することにより小海線の新たな魅力を発信できた。

今後の取り組み

2年間の事業を通じてSNS等で活動を発信することにより小海線の魅力と認知度を向上してきた。次年度以降は、本協議会が佐久地域の市町村や団体に限らず県境を越えた広域的なメンバーで構成されていることを生かして、山梨県側は中央線からの連結で首都圏（主に南関東）からの誘客のモデルをつくり、小諸市・佐久市側は、佐久平駅と小諸駅をハブに首都圏だけでなく、軽井沢からの周遊やしなの鉄道との連携により新たな観光モデルを創出する。小海線沿線市町村の人口が横ばいから減少傾向にあることを踏まえて、自転車やバスに加えて新たな交通手段を活用した2次交通との繋がりが今後の観光や沿線地域の活性化には不可欠になるため、このような観点から地域の魅力ある資源に対して面的にアプローチしていく。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	オール佐久による「産・学・医・官・民」の連携 ～SAKU メッセ 2024～
事業主体 (連絡先)	SAKU メッセ 2024 実行委員会 【事務局】(一社) 佐久産業支援センター 長野県佐久市中込 2336-1
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 オ. その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	18,938,003 円 (うち支援金: 5,000,000 円)

事業内容

佐久地域の「企業を知る」・「健康づくりを知る」をコンセプトとし、学生向け展示・体験を通して地域プライドを形成する場として「産学フェア」を、市民向け最先端の健康情報・サービスに触れる場として「健康フェア」を開催した。

- ・期間：産学フェア 10/3(木)～10/5(土)
健康フェア 10/5(土)～10/6(日)
- ・場所：産学フェア 佐久市総合体育館
健康フェア 佐久創造館
- ・展示会参加企業/団体数：81 (昨年度 75)
- ・来場者数：7,507 人 (昨年度 3,120 人)

事業効果

- ① アンケート調査により、出展企業の68%、来場市民の96%、小中学生・高校生の92%が「満足・非常に満足」と回答。
- ② アンケート調査により、印象に残ったのは「体験コーナー・製造業」、学んだことは「地域の企業の製品・サービス」という結果が得られ、「市民・学生参加型イベントによる健康意識向上、佐久市企業の周知」に大きな効果があった。
- ③ 学生見学会で、小中高校生の来場が1,355人あり、将来の就職先として地域企業を考えてもらう良い機会となった。

今後の取り組み

3回目のリアル開催となり、それぞれ対象者の的を絞った「産学フェア」と「健康フェア」により「市民・学生参加型の健康・医療産業展」のベースは固まりつつある。しかし、展示業者からは「ビジネスの拡大という点では目的を達せなかった」という意見もあり、今後はさらに地域外の健康医療関連企業・団体を呼び込み、展示会を通して新たなビジネスの機会を創出することにより、参加企業のエリア・規模を拡大し、「しあわせ健康産業都市佐久」の実現に寄与するメッセとして発展させたい。

【展示会場の様子】



【目標・ねらい】

- ① 佐久市を「しあわせ健康産業都市」としてアピールし、市民の雇用を創出している「ものづくり産業」や成長が期待される「ヘルスケア関連産業」の活性化を図る
- ② 市民・学生参加型イベントによる健康意識向上、佐久市企業の周知を図る

※自己評価【 B 】

【理由】

佐久の強みである「健康・医療」と「魅力ある企業」を市民、学生、来場企業に知っていただくことができました。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「渋沢栄一と第二のふるさと佐久」市民参加型事業による地域観光振興の推進
事業主体 (連絡先)	佐久商工会議所 0267-62-2520
事業区分	(6) ア特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,293,044 円 (うち支援金 : 3,316,000 円)

事業内容

- ① 渋沢栄一「藍(愛)の道」スタンプラリー
- ② 藍の道物産展・パネル展
- ③ 渋沢栄一と木内芳軒のパンフレットの制作
- ④ 渋沢栄一をテーマとした記念講演会
- ⑤ 渋沢栄一と木内芳軒の交友を描いたミュージカル
- ⑥ 渋沢栄一・木内芳軒の足跡を辿るツアー

渋沢栄一と木内芳軒との関わり合い、渋沢栄一と信州佐久との関わりを深く調べ広く多くの一般市民の方に知っていただくこと、また渋沢栄一がかつて通った「藍の道」の市町村と連携した事業を実施することにより、他の地域から観光客を誘致、集客することで佐久地域の新たな観光振興に繋げる各種事業を実施。

事業効果

各事業実施により渋沢栄一と木内芳軒との関わり合い、渋沢栄一と信州佐久との関わりを深く調べ広く多くの一般市民の方に知っていただくことにより、また広域スタンプラリーでは県をまたいで多くの参加が顕著にみられるなど佐久地域の新たな観光振興につながりました。ツアー会社と着地型ツアーなど観光誘致の事業化に向けて今後検討につながる効果が期待できます。

今後の取り組み

本事業実施にあたっては、佐久市観光協会、佐久市振興公社市民団体「渋沢栄一」第2の故郷”探偵団”・「佐久歴史の道案内人の会」等と連携を図り事業実施を推進。また、スタンプラリーを通じ渋沢栄一とゆかりの深い「佐久市」「下仁田町」「甘楽町」「富岡市」「深谷市」の5市町や官民の連携が図れ広域観光の推進による相互交流や経済活性化が図れた。
本事業実施により渋沢栄一と木内芳軒との関わり合い、渋沢栄一と信州佐久との関わりを深く調べ広く多くの一般市民の方に知っていただくことにより、来年度以降佐久地域の新たな観光振興につなげていく気運の醸成に繋がりました。



【藍の道スタンプラリー】

【目標・ねらい】

渋沢栄一と木内芳軒との関わり合い、渋沢栄一と信州佐久との関わりを深く調べ広く多くの一般市民の方に知っていただくこと

※自己評価 **【A】**

【理由】

渋沢栄一と木内芳軒との関わり合い、渋沢栄一と信州佐久との関わりを深く調べ広く多くの一般市民の方に知っていただくことにより、来年度以降佐久地域の新たな観光振興につなげていく気運の醸成に繋がりました

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	有機堆肥で環境に優しい農産物作り
事業主体 (連絡先)	山の中ガーデン小径 長野県佐久市根々井405-7
事業区分	(5)(6) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	588,586円 (うち支援金: 470,000円)

事業内容

気候変動を抑制する環境再生型農業の実践によりカーボンニュートラルを目指すため環境に優しい農産物作りを実践。

・有機堆肥作り講習会

保育園小学校コミュニティでの畑活動参加者が300人になり大豆の種まきから収穫脱穀、味噌づくりまでの1年間の中でコンポスト作りや有機堆肥作りハーブ栽培、環境問題についての学び、味噌作り豆腐作りきな粉作りをしながら食育という幅広く深い学びや体験から実践的な活動を行なった。

・給食レシピコンテスト

大豆と野菜料理というテーマで開催したコンテストは実行委員会になった児童たちが協力して考えたり行動することで探究的な学びとなり、応募参加した児童は親子でレシピを考え材料から調理することで食への関心を高め、親子で調理したりできた料理を美味しいと食べてもらう喜びを経験するなど有意義なコンテストになった。また受賞したレシピ2品が佐久市の給食献立になり手づくり給食を推進することもできた。

・上映会&ワークショップ

感動的なストーリーの中に食や環境を変えることで体や心も変わっていくというエビデンスも含めた説得力ある内容の映画を鑑賞したり講師の話聞く中で自分も実践したいという気持ちが強まり環境に優しい農産物作りへ踏み出す機会となった。

・有機堆肥で環境に優しい農作物作り

参加が4つの小学校と1つの保育園で開催することで環境学習、食農験を多くの児童たちの学びの機会となった。コミュニティ畑も増加し合計13カ所で300人が活動できたことは大きな広がりといえる。令和7年度実施を検討中の学校やコミュニティに参加したいという希望者も多くいることがこの活動の効果でありさらに広がりをみせる持続的な活動といえる。

事業効果

食レシピコンテストを通して関わり参加したすべての児童とご家族や学校の先生やクラスの友達も給食や食について楽しく考える機会となり、2品が佐久市の給食献立になることで給食センターと子どもたちがお互いに身近な存在になり手作り給食が増えたり残食を減らす活動が起こったりより良い給食環境へとなっていく道筋になった。

実際に土に触って体験することも学びであり、映画をみんなで鑑賞したり講師の話聞いてインプットとアウトプットすることで意識が高まり行動へとつながった

今後の取り組み

令和7年度も先生方からお声掛けいただいております、引き続き幼保、小学校での探究的教育として活動を行なう。参加学校や幼保も5つからさらに増やしていく。コミュニティ参加希望者も増えているのでしっかり把握管理しながらサポートできる体制を整えていながら参加人口と農地拡大を目指しカーボンファームと環境再生型農業を目指す。



【小学校大豆プロジェクト・種まき】

【目標・ねらい】

- ①環境に優しい農産物作りの参加者と農地を増やしカーボンニュートラルの取組を増やす。
- ②食と農への関心や知識を深め、意識を高め実践していく。
- ③環境と食について考え実践できる児童を増やす。

※自己評価【 A 】

【理由】

5つの保育園と学校で8クラスと活動、コミュニティ参加人口も増加し300人になった。コミュニティ畑は5から当初11に増やす予定が13に増加。環境に優しい農産物作り人口や農地が増加し、実践する意識を持つ人々が増えたことは大きな意味を持つ。活動参加者が楽しく生き生きと学び考え行動していることは探究的な学びを推進している現在の教育方針にも当てはまるものとして今後も確立継続していきたい。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久酒造協会 13蔵とご当地グルメが共同開発する新たな地域の食文化発信事業
事業主体 (連絡先)	信州佐久安養寺ら〜めん会 佐久市猿久保 805-1 電話 0267-66-6660 代表 金子
事業区分	6 産業振興、雇用拡大に関する事業 (オ) その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,101,736 円 (うち支援金: 2,481,000 円)

事業内容

『新たな佐久地域のご当地グルメ誕生!!』
佐久の13蔵と地元ラーメン店・スイーツ店による
コラボ!スタンプラリーイベントの開催

■開催期間/令和6年12月26日(木)～令和7年2月11日(月)

■参加店/佐久地域の酒蔵13蔵、信州佐久安養寺ら〜めん会加盟店を含む佐久地域のラーメン店15店、佐久地域のスイーツ店5店。

■ターゲットエリア/東信地域、他県内地域

■広報/週刊さくいだいら、月刊とわいえ、SNS

■概要

信州佐久安養寺ら〜めん会加盟店を含む佐久地域のラーメン店15店と佐久地域のスイーツ店5店で酒蔵13蔵とコラボレーションしたラーメン・スイーツを開発・販売しました。また、話題づくりのために、同時にスタンプラリーを行い、スタンプが4つたまったら、オリジナルアルクマピンバッジをプレゼントしました。その他、副賞として、後日抽選でマグカップ2個セットを10名様に、八幡屋儀五郎「小海線缶」を39名様にプレゼントしました。また、佐久の酒蔵13蔵と参加ラーメン店・スイーツ店を紹介するパンフレットを制作し、佐久の特産への理解を深め、より多くの人に酒蔵や店舗、佐久地域へ足を運んでもらうようにしました。

事業効果

■スタンプラリーピンバッジ交換者 703人

■総来店数 2806人

(ラーメン店: 1725人) (スイーツ店: 1081人)

■いただいた感想(台紙より一部抜粋)

「高評価」

- ・このスタンプラリーのお陰で初めてのお店も行きやすい。
- ・ラーメンもスイーツもとても美味でした。
- ・参加店が増え選択肢も増えてよかったです。
- ・佐久地方をまわられて良かった(来る機会があまりないので)

- ・日本酒の可能性を感じた。
- ・ピンバッジかわいい!
- ・今回からスイーツが増えたので更に佐久を楽しめました。
- ・地域活性化の取り組みとして良いイベント。
- ・他の地域にも自慢出来ると思う。
- ・期間限定でなく通年やってほしい。

「改善等」

- ・もう少し期間を延長してほしい。
- ・スイーツのコラボがもって増えてくれると嬉しいです。
- ・ラーメン、スイーツ以外のもの。
- ・酒かすば苦手。甘酒を生かしたメニューがあるとうれしかった。など多くの声をいただきました。

今後の取り組み

より多くの飲食店・事業者に関わってもらい、「酒蔵」とのコラボレーションの発展、ご当地グルメの開発・認知拡大を図っていければと考えております。



【伴野酒造×麺匠 佐蔵】



【千曲錦酒造×YasunoriOkada】

【目標・狙い】

■地酒という特色のある地域の食材を生かした「酒蔵コラボラーメン・スイーツ」という新しい食文化をつくり、まちの新しい魅力づくりに寄与します。

■酒蔵コラボラーメン・スイーツという新しいご当地グルメをつくることで、多くの飲食店が一緒に取り組むことで、大きな波及効果をもたらすことができます。

■酒蔵や参加店をまとめたパンフレットを配布することで、地域に対する新しいファンの創造を高めます。

※自己評価【 C 】

【理由】

一定のファンは作れているが、これからの時代を担う若年層の参加が少なく、課題が残る。

令和 6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	まるごとつながるフェスタ佐久平
事業主体 (連絡先)	まるごとつながるフェスタ佐久平実行委員会 佐久市佐久平駅南 11-10
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,816,460 円 (うち支援金 : 3,853,000 円)

事業内容

佐久平南周辺の企業や佐久市等の地域が連携し、佐久平の魅力を発信して、「多くの方に佐久平にお越しいただくことで、地域活性化と観光 PR、鉄道・バスの利用促進につなげたい」との思いから開催。

- ・ A エリア (佐久平駅) …駅から魅力発信
- ・ B エリア (ミレミアムパーク) …佐久音祭り
- ・ C エリア (市民交流ひろば) …ねこマルシェ開催
- ・ D エリア (カインズ) …つながるこども広場
- ・ E エリア (ベイシア) …親子で楽しもう
- ・ F エリア (イオンモール) …つながるを楽しもう
- ・ 歩行者天国…地域の安心・安全を守る車大集合



【開催式キャラクター集合】

【目標・ねらい】

- ① 佐久平の魅力を発信
- ② 地域活性化と観光 PR
- ③ 公共交通機関利用推進

事業効果

佐久平南周辺の企業と行政が一丸となり、地域共創としての取り組みが実現でき、地元の方には佐久平の魅力を再認識していただき、外部からお越しいただいた多くの方には佐久平の PR が出来た。また多くの企業、行政、学校関連の協力と協働での取り組みで地域連携の強化に繋がった。

※自己評価 【 A 】

【理由】

- ・ 全エリアの来場者が、前回実施から 118.3%増加。
- ・ SNS 等で大型イベント開催と発信、拡散された。
- ・ 地域連携強化で地域共創の取り組みとして実現できた。

今後の取り組み

コロナ禍で企業の体力が落ちている中で、何とか佐久平の魅力を発信し、地域を元気にしたいという思いで昨年度から実施した取り組みです。この取り組みを継続することで、年々参加団体を増やしていき、来場者の方に多くの「つながり」を提供していく場となることを目指します。来年度開催実現に向け、今回の反省点や改善点を定例会議にて共有、議論し、更に魅力ある企画となるよう、月1回のまるごとつながるフェスタ佐久平実行委員会定例会を開催し、進めて参ります。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「つくろう! “舞台芸術の日”」こども実行委員会事業
事業主体 (連絡先)	佐久地域“舞台芸術の日”運営委員会 saku.butagei@gmail.com
事業区分	(3)教育、文化の振興 (1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,353,694円 (うち支援金: 1,656,000円)

事業内容

①プロの劇団によるワークショップ・公演の開催
パントマイムによる創作劇が国内外での評価を得ているカンパニーデラシネラを招聘し、子どもたちのための身体表現ワークショップ、舞台公演を実施。いずれも18歳以下が無料で参加できるものとした。

- ・10月26日 ワorkshop「マイムや身体表現を体験!!」(会場:イオンモール佐久平イベントホール)
- ・10月27日 舞台公演「はだかの王様」(佐久平交流センター)

②子ども実行委員会を組織

佐久地域の7校 13名の小学生が参加し、下記の活動を行った。

(a) 6~2月に月1回の実行委員会で公演の宣伝や当日運営の準備等。具体的には、招聘アーティストやパントマイムについて知る、公演のテーマとタイトルを考える、チラシとポスターのデザイン・制作、商店や公共施設等への配布・掲示の依頼、ラジオやCATV出演による宣伝、会場レセプションの役割の勉強と練習、会場掲示物の制作など。

(b) 8月にカンパニーデラシネラによる身体表現のワークショップ体験、講師へのインタビュー。事後に、体験を踏まえて10月に一般向けに行うワークショップの内容について講師と話し合った。

(c) 公演当日の会場運営(会場準備、レセプションとして受付、案内等)

事業効果

①ワークショップには小学1年~中学2年の18名、公演には約300名が来場し、その内の約6割が子どもであった。

②来場者アンケートにて公演内容に満足した人9割、「来年もこのような公演をやってほしい」人9割。感想としては、普段は観られない質の高い舞台芸術に触れたこと、幼い子どもから大人まで楽しめる内容であったことを喜ぶ声が多数寄せられた。

③子どもスタッフはチラシやパンフレットのデザインについて積極的に意見を出し、手描きのイラストやマンガを制作したり、ラジオやケーブルTVで自分たちの活動や公演の面白さを語るなど準備に力を入れ、会場での受付や案内も力を合わせて行った。

アンケートではスタッフの対応に満足した人が9.7割で、一生懸命さやハキハキとした対応など子どもたちの対応を称賛するコメントも多く寄せられた。これらの体験から「自分たちで考え、工夫し、お客さんに喜んでもらう」ことの面白さや喜びを知り、より主体的に取り組む子どもスタッフの姿も見られた。

今後の取り組み

来年度も舞台芸術公演・ワークショップ・こども実行委員会という3本柱で事業を継続する。その際、上田市の団体と連携することで、広域に賛同者を増やすこと、佐久地域の住民との文化的な交流が生まれることを目指す。

また、各こどもスタッフが単年の参加で終わらず継続したいというモチベーションを持ってよう、より一層子どもスタッフの意見を取り入れ、一緒につくる楽しさややりがいを感じてもらうことに注力する。その結果、子どもたちが仲間と協働して自分達の未来の町を作っていくイメージを持てるようにしたい。



終演後のアーティストと
こどもスタッフたち

【目標・ねらい】

- ① 佐久地域の子どもたちが本物の芸術に触れる機会をつくる
- ② 未来の佐久地域の文化の担い手を育てる

※自己評価 【 A 】

【理由】

- ・ワークショップ、公演共に満席となった
- ・公演への満足度は目標値を上回り、翌年への期待値も目標値に達した。前年以上に、内容への満足を表すフリーコメントが多かった。
- ・ワークショップと公演の実現に向けて子どもの果たす役割が前年以上に増えた。前年以上に、子どもスタッフの対応を称賛する来場者のコメントが多かった。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小海町・佐久穂町同盟協定に基づく「若者に選ばれる事業者育成事業」
事業主体 (連絡先)	小海町商工会 南佐久郡小海町豊里 57-1 電話：0267-92-2397
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,812,200円 (うち支援金：3,049,000円)

事業内容

小海町・佐久穂町では、年々増加する若者の町外流出に歯止めをかけるべく、地元高校生等を対象に地元企業の周知を図り、企業には就職先として選んでもらうための育成事業を実施。

- ・小海、佐久穂で働きたい方向け冊子の作成
- ・小海、佐久穂で採用したい企業向け冊子の作成
- ・町内で若者を採用できている企業及び労働者本人を紹介したWEB記事の作成、発信
- ・小海町、佐久穂町合同就職相談会の開催
- ・地元高校と連携したインターンシップの実施

事業効果

- ①合同就職相談会での企業紹介冊子や、上記冊子を地元高校等へ配布し、地元企業の周知を図ることができた。
- ②企業研修会や上記冊子を通じて、社会の変化や動向、採用に向けたステップなどの知識などを得ることができた。
- ③生徒へ地元企業の情報提供を円滑にいただき、合同就職相談会もスムーズに実施できた。
- ④単独での実施は困難であったが、連携を図ることによって体制が強化され、広域的に事業を展開できた。

今後の取り組み

- ・より広域的に地元企業の周知を図るため、小海・佐久穂町内の企業紹介や、求職情報を集約したホームページの作成を計画中。
- ・採用を検討する企業に対しては、継続的に勉強会を実施する。



【合同就職相談会の様子】

【目標・ねらい】

- ①若者へ地元企業の周知
- ②地元企業の育成
- ③地元高校との連携強化
- ④両町、両商工会の連携強化

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・両町、両商工会で連携したため一体的に地元企業を知ってもらう機会を創出することができた。
- ・地元企業には継続的な勉強会等が必要であると実感したため。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	JR 小海線で行く車いすの旅事業
事業主体 (連絡先)	小海線とふるさとを愛する会 contact@ilove-koumi.com 品川和宏
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	575,309 円 (うち支援金: 300,000 円)

事業内容

JR 小海線を貸切り、車いすユーザーとボランティア学生、医療従事者、その他スタッフなどが乗車し、中込駅～小淵沢駅を往復。車内でさまざまな催しを行うことで、車窓を眺める従来型の観光ばかりでなく、コミュニケーションの充実をはかる企画に取り組んだ。結果を受けて、「公共交通におけるバリアフリー」をテーマとしたシンポジウムを実施した。

■ 催行日

- 2025年2月 1日(土) 車いすの旅 実施
- 2025年2月 22日(土) シンポジウム開催



【出発時の写真】

【目標・ねらい】

- ① 障がい者のニーズにこたえる
- ② 地域医療先進地域を走る JR 小海線の可能性を追求する
- ③ 学生などとの交流をはかる

事業効果

- ① あらかじめ上限として定めていた車いすユーザー9名が一人の欠席者も出さず全員が参加。うち ALS 等の重度障がいのため大型の車いすで参加される方もいたが、JR や医療従事者の協力で無事に遂行することができた。
- ② NHK や信濃毎日新聞に複数回にわたり採りあげられ、<小海線/ニュース>の Google 検索1番目表示となるなど、多くの地域内外の方に事業を紹介することができた。
- ③ 実施後1ヶ月以上経たのちでも「私も参加したかったです。ぜひ次回お誘いください」といった問い合わせがある。

※自己評価 【A】

【理由】

- ・ 県の推進するユニバーサルツーリズム事業であり、JR 小海線で「車いす利用者」を主体とする旅を初めて実施した。
- ・ 佐久大をはじめ学生の協力も得られ、予想を超えた反響と評価を得た。

今後の取り組み

- ・ 公共交通機関のなかでも、鉄道は障がい者に最も優しい乗り物でもあり、車内は狭いながらもバスとは比較にならず、一般利用者とコミュニケーションを円滑にできるスペースも十分確保できることが改めてわかった。ユニバーサルツーリズム推進のために鉄道は不可欠であると訴えていきたい。
- ・ 多くの反響を得たことで、事業の有効性/必要性の理解も広まり、今後は支援金をいただくことなく、協賛やクラウドファンディングなどで十分に実施資金を確保できる見込みである。
- ・ 佐久大学との関係は強固となり、今後さまざまな事業を協働していく所存である。
- ・ 定員が限られているなかで要望にどれだけ応えられるのか、また障がいの程度によるきめ細やかな対応は今後の課題となる。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	JR 小海線ファン検定とクイズ列車事業
事業主体 (連絡先)	小海線とふるさとを愛する会 contact@ilove-koumi.com
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	309,560 円 (うち支援金 : 240,000 円)

事業内容

民間資格として「JR 小海線ファン検定」を設けることで、沿線住民のみならず、多くの人に、より身近に、より興味をもってもらい取り組みとする。
 さらに、貸切り車両による「クイズ列車」(=JR 小海線横断クイズ王決定戦)を実施することで、JR 標高最高地点を通過するなど小海線独自の魅力をアピールし、利用者増加をはかる

■ 催行日

- 2024年7月6(土)7(日)イオンモールでファン検定実施
- 2025年2月1日(土)「車いすの旅」でファン検定実施
- 2025年2月22日(土)前夜祭開催
- 2025年2月23日(日)JR 小海線横断クイズ王決定戦開...

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①検定やクイズという形で、小海線や沿線地域の魅力を掘り起こし、地域振興の一助となったと考える。
- ②クイズ列車は、テレビ信州や信濃毎日新聞に大きく採りあげられ、「車いすの旅」同様に、<小海線/ニュース>のGoogle 検索1番目表示となるなど、多くの県内外の方に事業を紹介できた。
- ③小海線統括センターの所長はじめ多くの方々ที่参画いただき、また逆に感謝の意を伝えていただいたことで、今後さまざまな事業が実施しやすくなった。

今後の取り組み

- ※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。(今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など)。
- ・次回は、星空の魅力をアピールするためにも夜間での事業実施を考えている。一過性の取り組みにならないよう、小海線を主体とするものから、地域を主体とするクイズ等の展開に取り組んで行く。
 - ・自立した取り組みにしていくために、全国のさまざまなローカル線との連携も深め、一種の雛形として企業等への“売り込み”も考えていく。またメディアを通じて広く紹介されたことで、参加者募集が容易になり、一定の負担金も求めても問題ないと考えている。
 - ・今回の参加者とはLINグループを通じてネットワークしており、今後の展開に活かしていきたい。



【表彰式の様子】

【目標・ねらい】

- ① 小海線や地域の持つ魅力を検定やクイズを通して伝える
- ② 沿線住民のみならず、多くの人に、より身近に、より興味をもってもらい取り組みとする

※自己評価【A】

- 【理由】
- ・JR 小海線の魅力や沿線地域の魅力を地域内外の方に伝えることができた。
 - ・準備段階から高校生の協力を得たほか参加者にも若者が多く、活気に満ち溢れる取り組みとなった。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	南牧村に自生する希少植物の保全事業～豊かな自然を次世代に引き継ぐために～
事業主体 (連絡先)	のべやま山野草プロジェクト (南佐久郡南牧村野辺山 693 野辺山荘内)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業 (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,932,801円 (うち支援金: 1,507,000円)

事業内容

- ・タルマイスゲを含む希少植物の、矢出川公園内への移植と保全管理
- ・出前授業開催 6月28日南牧村立南小学校5年生
- ・矢出川公園夏の植物観察会開催 7月30日34名参加
- ・ハンドブック「写真で見る南牧村の絶滅危惧植物」作



【 矢出川公園夏の植物観察会 】

【目標・ねらい】

- ①希少植物の移植による保全
- ②生物多様性の重要性を知ってもらう
- ③当会の活動への理解を深めてもらう

事業効果

- ・自生地の希少植物の絶滅を回避できた。
- ・植物観察会や小学校出前授業の開催により、地域の生物多様性の重要性をアピールできた。また、当会の活動への村民の理解が深まり、ボランティアメンバーの増加にもつながった。
- ・ハンドブック「写真で見る南牧村の絶滅危惧植物」の公共機関などへの配備と戸別配布により、地域の生物多様性への理解を促進できた。
- ・事業全体を通して、村の自然保護について行政との協働が図れるようになった。

※自己評価 【 A 】

【理由】

移植した希少植物は順調に生育している。
植物観察会、当会のメンバー増加についても目標を達成できた。
村内で当会の活動についての理解を深めることができた。

今後の取り組み

- ・引き続き矢出川公園内での山野草保全を続け、いずれはこの公園をタルマイスゲ他、地域の希少植物の避難地としての機能を持たせたい。
- ・南牧村との協働でこの公園を起点とした遊歩道を整備し、気軽に南牧村の自然に触れ合える場所を提供していく。
- ・村内小学校の出前授業を来年以降も実施する。また、今年度では実施できなかった村内の中学校での校外学習にも来年以降、取り組んでいく。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	かるいざわ ざわざわ 2024～創造と想像がまちとひとを彩り対話が生まれる～
事業主体 (連絡先)	かるいざわざわざわ実行委員会 info@karuizawa-zawazawa.com
事業区分	主：(1)地域協働の推進に関する事業 関連：(8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
総合5か年 計画区分	主：3-2 文化、スポーツの振興などゆとりある暮らしを創造する
事業タイプ	ソフト
総事業費	7,180,600 円 (うち支援金：4,955,000 円)

事業内容

令和6年10月12日(土)～11月4日(月・祝)、軽井沢町全域と周辺市町にて、芸術祭を開催。

主催企画として、「ベンチプロジェクト」は公園15箇所、まち4箇所、民家は新たに絵本と選書が自由に読める本箱を合わせて3箇所設置。対話の場としての「トークイベント(ZAWAZAWA TALK)」は元オリンピックも加わり環境問題にも関心を寄せて開催。

協力企画としては、軽井沢駅2フロアにて町の小中高生たちと美術教員の作品展示。中軽井沢駅構内にてワークショップを開催。また、「軽井沢フォトフェスト」と連携し、別荘地を散策しながらの撮影会を実施。

美術館5箇所、参加企画として町内37箇所、連携企画として御代田町3箇所、小諸市3箇所、佐久市3箇所、群馬県北軽井沢2箇所が会場となり、芸術祭開催期間中に展示やイベントを実施した。



【目標・ねらい】

① 住民が主体の芸術祭

住民による手作りの芸術祭を開催することで、わたしたち住民同士が声を掛け合い助け合いやすい環境を創り出します。町への愛着心を育みながら、様々な課題解決に向けた取り組みへと繋がります。

② 創造プロセスを共有し、創造的な対話を起こす

できあがった作品を誘致して鑑賞する受け身のものではなく、作り手と実際に出逢い、創造プロセスに居合わせることで、作り手や発信側の考えや想いに触れることができます。様々な表現に触れて自由に想像を膨らませ、他者を理解し認め合い、まだ見ぬ未来への創造的な対話の場に繋がります。

③ 循環を意識し、持続可能なものを未来に繋ぐ

持続可能な地球の“循環”と“再生”を意識します。たとえ不完全であっても、できる限りの努力をすることで、一歩ずつSDGsへの認識を共有したいという思いからコンセプトに加えました。

事業効果

- 参加企画：79箇所、人数約680名
- 協賛企業：11社(個人含む)
- イベントに訪れた人：ウェブ上のマップ等へのアクセス、スタンプラリー訪問数から3,700人程度と推定。
- 当初の目標であった移住・定住、リピーター増加に繋がる指針を導き出すためのアンケート調査は実現できなかったが、その代わりに今後の協賛への誘導も見据え、スタンプラリーを実施できたことで、企画者が能動的に参加できる環境設定をした。そこからより一層、住民が主体となって取り組み芸術祭を盛り上げる姿勢が見られ、また、顔の見える対話の場を設けたことで、住民同士が地域課題に向き合い、解決に向けた住民活動が活発になるきっかけが各所で見受けられた。

今後の取り組み

当事業が10年20年と継続し、まちの文化となるために、基盤となる全体像やコンセプトは来年度も引き続き同じメッセージで発信をし、主体となる住民が共有していけるようにします。

住民が創造し、プロセスや対話をともにしていけるような環境設定をより研ぎ澄ませ、令和8年度から自走できるロードマップを描いています。

具体的には、短期的には協賛営業ですが、長期的には住民の経済が循環し始めるようなイメージです。昨年度に引き続き、「飲食店なので、芸術祭に関しては何もできないと思っていた。しかし知り合いのアーティストの作品を壁やテーブルに展示することで参加でき、新規顧客獲得や地元へのアプローチができた」という声だけでなく、「コーヒー焙煎所が舞台の演劇ワークショップが出来るとは驚いた。参加してみたら、新しい世界が見えて非常に面白かった」ような声がありました。

このように視野が広がることで、“観光客が来ないと営業できない”というこれまでの観光地としての慣習から「地元住民のために私の生業がある」という視点も加わると町が元気になっていくと信じ、今後も芸術を起点とした地域活性化に取り組んで参ります。

また、実施できなかったアンケート形式による効果測定について、実施体制を整えたいと考えています。特にマンパワー不足による事務局活動の役割分担とともに、事務局機能の物理的な場所についても課題が残っています。

ただし、ウェブサイトレポートによる数値だけでなく日ごろの暮らしの中でも、「わざわざで開催していたイベントに参加した」「興味があるのでお手伝いしたい」など、反響を感じる機会が多くなりました。そこで、令和7年度は未定ではありますが駅構内のチャレンジショップに出店し、実行委員や参加者たちの作品展示やワークショップを日常的に開催、秋の芸術祭をその集大成として見せる、という一時期のイベントではなく地域の暮らしのなかに循環をつくり、運営面の強化を図り、事業効果をさらに高めることにも注力したいと思います。

※自己評価【B】

【理由】

今回初の試みの事業としては住民への公式ガイドブックの質量とともにウェブでのリーチの数(※添付資料「ウェブサイトレポート」参照)から読み解くにつき予定を上回る効果を得られたと自負するものの、継続及び改善すべき点も明らかになったため、来年度以降工夫を要したいという意味でCとしました。

全体像の描き方、実行委員や参加者の動きが良かっただけに、協賛に向けての営業活動＝事務局運営に課題が残っています。

また、継続という意味では、将来的な自走(特に人材と経済的な面で)を視野に入れていく必要性を初年度から感じました。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	子どもも大人も一緒に考える「食品ロス」
事業主体 (連絡先)	ナカマノコエ
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,480,991 円 (うち支援金 : 1,168,000 円)

事業内容

軽井沢町は住民1人あたりのごみの排出量が県内で最も多い。本事業では生ごみ削減につながるコンポスの啓発を中心に、情報発信やイベント開催によって、気候変動などの環境課題に対応する持続可能な社会の在り方について考える機会を提供した。

- ・ラジオと YouTube の番組制作
- ・Xでの情報発信
- ・佐久平クリーンセンター施設見学会開催 2024.8.8
- ・第1回軽井沢コンポスト会議開催 2025.1.12



軽井沢高校の高校生や卒業生が参加して番組作りをしました

【目標・ねらい】

ごみ削減やロスを生まないサステイナブルなまちづくりに関心を持つ人を増やす

事業効果

・町内でごみ問題に取り組む団体は他にない。2050 ゼロカーボンに向け、地域に根付いたラジオや YouTube などによって情報発信続けている影響が、徐々にではあるが大きくなっている。

- ・地元の事業者の協力を得てイベント開催を行った。
- ・地元事業者の協力を得て町内小学校で授業を行った。
- ・X フォロワー数
262名→334名 (72名増)
- ・YouTube チャンネル登録者数
61名→92名 (31名増)

※自己評価【 B 】

【理由】

これまでつながりのなかった若い世代や、地元事業者との関係性をつくることができた。動画や音声のオリジナルコンテンツを増やすことができた。

今後の取り組み

2024年度の成果である地元高校や地元事業者との協力関係を強化し、「ごみ削減・資源循環・気候変動」についての情報発信やイベント開催を行う。動画と音声のコンテンツを増やしつつ、文字媒体を利用することも検討する。生ごみ堆肥化の良さを発信することは、単にごみを削減するだけでなく、土や農、食への関心を高めることにもつながるため、イベント出展や学校での授業などを通して引き続き重点テーマとして扱う。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	御代田町「食の風土記」制作事業
事業主体 (連絡先)	農村女性ネットワーク御代田 (御代田町産業経済課農政係 TEL: 0267-32-3113)
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,872,290 円 (うち支援金: 2,295,000 円)

事業内容

昭和 30 年代までの農家の暮らしは、春の畑作り・田植えなどの農作業に始まり、秋までの絶え間ない収穫・出荷作業に追われていた。家族全員が労働力であり、力を合わせて乗り切った原動力は「食」であった。高度成長期には、農家の暮らしも食も豊かさと便利さを求めて大きく様変わりした。先輩女性の知恵と作業によって家族の「命」をつなげるための借しめない努力から生まれた四季折々の郷土食や人生の節目ごとに楽しんだ行事食が今、家庭の食卓から途絶えようとしている。

このような背景の中、農村女性ネットワーク御代田では、食の営みを見直そうという機運が高まり、地域で受け継がれてきた食のあり様の歴史と地域に伝わる行事や季節に応じた食文化を次の世代に伝承するため、賛同者と共に「御代田の食の風土記」の編纂・発行した。



【食の風土記編纂会議】

【目標・ねらい】

- ① 御代田町の伝統食を後世へ残す
- ② 人生の節目ごとの楽しんだ行事食を再認識してもらう
- ③ 食を通じた命の大切さを次の世代に伝える
- ④ 食の有様の歴史と伝統行事や季節に応じた食文化

事業効果

女性の知恵と工夫により生まれ、受け継がれてきた四季折々の郷土食や伝統食、また、人生の節目ごとに楽しんだ行事食途絶えようとしていることが課題であったが、そのような状況の中農村女性でないと伝えることができない、食を通じた命の大切さを次の世代に伝えた行くため、以下の事業を実施した。伝統食文化を継承することで、過去から続く、知恵と作業によって家族の人生の節目ごとの楽しんだ行事食を再認識してもらい、伝統食について地域や家庭で話すきっかけとなった。また、町内の各家庭で、食の営みを見直そうという機運が高まり、地域で受け継がれてきた食の有様の歴史と伝統行事や季節に応じた食文化を次の世代に伝承していくきっかけとなった。

※自己評価【 B 】

【理由】
当初の記録に残し、伝承していく目標は達成したが、計画以上に、御代田町「食の風土記」を活用し、広く周知する余地があることから、この評価とする。

今後の取り組み

農村女性ネットワーク御代田で行っている、中学校調理実習や、農でつながる女性のつどい、その他幼稚園や保育園、小学校でも調理実習計画し、それらの機会を利用して、御代田町の伝統食を継承していきたい。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	正しく歩いて健やかに 高齢者の健康寿命延伸事業
事業主体 (連絡先)	ちょこっとストレッチ教室
事業区分	保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,786,171円 (うち支援金: 1,813,000円)

事業内容

着実に進行している高齢化社会において、高齢者の健康寿命延伸が、保健、医療、福祉の充実に重要と考えて、気軽に参加できるストレッチ教室を開講した。

参加費1回200円(約70分)

令和6年度は、正しく歩いて転倒を防ぐことを重点的に取り組み、一般社団法人 歩行ケア協会と連携しながら年間180日・361回を開催した。

年間参加者数は10205名(前年比116%)となり、高齢化社会の切実な需要を感じている。

事業効果

- ・歩行計測で転倒リスクのあった20名のうち、13名(65%)が、半年後に数値を改善していた。
- ・慌てやすい参加者が、落ち着いて歩くようになった。
- ・自宅から教室まで歩いてくる参加者が増えた。
- ・効果のあった運動メニューは、佐久市(野沢会館)と佐久穂町(茂来館)の教室でも取り入れられた。

今後の取り組み

令和5年度の筋力アップ、令和6年度の転倒防止でも対応しきれっていない、突発的な健康寿命の喪失となる血管疾患(心筋梗塞等)を予防する血管のケアと、コミュニケーションの喪失によるフレイルを予防する居場所作りを、令和7年度の事業として取り組んでいきたい。

血管のケアでは、身体を温めるような運動メニューを追加することにより、高血圧の症状改善を目指していき、居場所作りでは、体力的な限界で運動が難しい高齢者にも、気軽に会って話せる居場所を提供することにより、さらに良いかたちでの健康寿命延伸を事業目的とする。



令和6年度 最終開催日

【目標・ねらい】

- ①転倒しにくい歩き方を学ぶ
- ②慌てない心構えを鍛える
- ③近所なら歩く習慣を身につける
- ④事業効果を社会全体に広げる

※自己評価【 A 】

【理由】
参加人数が予定を大幅に上回り、提供している価値を確認できた。

歩行計測の結果からも、事業の効果を十分に認められた。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	駅を拠点とした広域サイクリングとデジタルマップとの融合による歴史に触れる新たな観光推進事業
事業主体 (連絡先)	東信州中山道連絡協議会 0267-56-1004 (立科町商工会)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,574,000円 (うち支援金: 2,044,000円)

事業内容

- ① 軽井沢地区で3コースのサイクリングコースを設定した。実際に東信州ストロリーを活用しながらモニターツアーを実施し、参加者の意見を取り入れながら観光資源として観光業者に活用を促した。東信州のサイクリング啓発ポスターを作成し、中山道沿線の商工会・会議所・観光協会・市町村等の窓口に掲示した。
- ② 街道めぐりデジタルマップ「ストロリー」のレベルアップと中山道11宿の宿場カードと収集用ホルダーを作成し、中山道沿線の商工会・会議所・観光協会・市町村等を通じて周遊者に無料配布した。広報は、当会ホームページ及び配布窓口にPOPを掲示した。



【軽井沢にて】
【目標・ねらい】

- ① ストロリーを充実させ、活用機会を増やす。
- ② ストロリーを活用したサイクリングを観光資源に育てる。
- ③ 宿場カードの作成配布で、中山道の歴史興味を醸成。

事業効果

- ① ストロリーへの訪問者は月平均600名を超えた。前年度は500名程であるので20%程増えた。サイクリングモニターツアーは、観光関係参加者や、一般参加者で好評価であった。
- ② 宿場コレクションカードとホルダーの作成配布は、取得希望者が多く、周遊者や地元住民の歴史を感じる中山道に愛着を深めるツールとなった。

※自己評価【 B 】

【理由】
ストロリーの改善、3サイクルコースの設定とモニターツアー、コレクションカードとホルダーの配布。全般に評判良く、次の一手に繋がられる事業となった。

今後の取り組み

東信州中山道ストロリーのコンテンツが充実し、周遊者のツールとして活用できるものになったので、これを観光振興に係る諸団体やホテルを含む観光事業者のホームページにリンクを張って、利用者の周遊満足度を向上させていく。

電動アシスト付自転車利用のサイクリングは、体力に気をつかわずサイクリング自体を楽しむことで観光に適している。これはサイクリング対象年齢層も広がるので、歴史を振り返るサイクリングコースの拡充を図っていく。

コレクションカードは、非常に好評で在庫がほとんど無い状況となっている。本協議会あるいは配布関係による増刷が必要になっている。ニーズの高い本ツールは、増刷して、観光ツールとして、さらに活用を図っていく。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	令和6年度「小諸の桃」ブランド化事業
事業主体 (連絡先)	小諸市営農支援センター (小諸市相生町 3-3-3 農林課 0267-22-1700)
事業区分	(6) イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	506,539 円 (うち支援金: 400,000 円)

事業内容

①ASAMA PEACH FESTIVAL 2024

共撰所直送の桃即売、桃を使ったフード・スイーツ販売、就農相談ブースなど、三岡地域の桃「浅間水蜜桃」を楽しめるイベント。各団体が協力することで、桃の収穫期に開催することができ、桃は1時間で品切れ、どの出店者も完売となる盛況ぶりで、新たなファンを獲得することができた。

②浅間水蜜桃ブランドロゴの制作

長く親しまれ、生産者・地域住民に身近でありながら、小諸の風土や独自性をあらわしたデザインを目標とした。消費者の持っているイメージをもとに、目指すべき姿を共有し、桃に携わる方々との対話を繰り返し、ロゴを生み出した。



ASAMA PEACH FESTIVAL 2024

【目標・ねらい】

- ①浅間水蜜桃のブランド化
- ②浅間水蜜桃のファン獲得
- ③浅間水蜜桃を生産する三岡地域での新規就農者の獲得

事業効果

・ASAMA PEACH FESTIVAL 2024 では、浅間水蜜桃がどれだけ知られ、どのようなイメージを持たれているかを参加者との交流やアンケートで確認した。その情報をもとに、浅間水蜜桃のブランドイメージをつくり、桃に携わる方々へのヒアリングを繰り返し、ブランドの核となるロゴを制作することができた。

・直売や桃を扱ったメニューを開発・販売することで、これまで浅間水蜜桃を食べたことがないという幅広い層にも体験してもらうことができた。「普段はどこで買えるのか」「来年もイベントを開催してほしい」などの声を多くいただくことができた。

・同時期に企画し、事業を通して周知してきた「ももセミナー」には30名を超える参加者が集まり、栽培を学び始めている。新たに2名が、桃農家のもと里親研修を始めており、産地の担い手として期待される。

※自己評価 【A】

【理由】

浅間水蜜桃のブランド化・認知向上という目的を、イベントを切り口に取り組んだ結果、多くの反響を得ることができた。それだけでなく、就農につながる形で桃に関わる方が大きく増え、産地の未来の担い手を確保することができたため。

今後の取り組み

制作したブランドロゴを柱として、生産者の想いや小諸の風土、桃栽培の歴史など、浅間水蜜桃に関わる様々なストーリーを乗せて、様々なPRを行っていく。一方で「どこでどのように購入すればいいかわかりづらい」「すぐに食べられる場所が少ない」など、産地としての課題もあるため、本事業をとおして協力関係ができた事業者や団体を連携し、浅間水蜜桃が楽しめる機会や場所の拡充に取り組む。それらの活動を「就農相談」や「技術講習」などと組み合わせることで、「桃をつくってみたい」という方に寄り添い、担い手が集まる三岡地域を目指す。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小諸マチナカ回遊プロジェクト「こもろ浪漫」
事業主体 (連絡先)	小諸マチナカ回遊プロジェクト実行委員会
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	985,013 円 (うち支援金 : 374,000,円)

事業内容

小諸の旧北国街道沿いには観光資源となりえる歴史ある寺社が多くあることから、マチナカ散策ルート及び観光スポットを開発することにより、マチナカ商業の活性化及び寺社や町家への維持管理意識向上、活用へつなげる。

- ・こもろ浪漫輪印巡り : 10月19日～11月20日
街道沿いの寺社に輪印(スタンプ)を設置し、回遊。
- ・街道LIVEの開催 10月19日(土)
寺、蔵、宿場町でアーティストによるライブを開催。
- ・こものみ市の開催 11月2日(土)
寺に菰を敷いて出店。出店者のテストマーケティングに。

事業効果

- ① 各寺の特徴を活かした輪印を設置したことで、旧北国街道沿いを歩く人が増加し、店舗来場者も増加。(総来場者数910名(目標750名))
- ② 寺社や蔵、宿場町を会場にイベントを開催することにより、もっと小諸を知りたい、小諸に関わりたい、盛り上げたいという女性や若い世代の県外市内含め15名(目標10名)がボランティア参加し、建物管理者や住民と交流が生まれた。
- ③ こものみ市開催により31店舗がお試し出店。子どもたちを対象にした出店があり、多くの子どもたちが寺に来場した。

今後の取り組み

- ・観光資源となる寺社や蔵、宿場町の観光資源となるポイントをより磨き上げ、各観光資源にあったイベント企画内容を実施。寺社や蔵、宿場町と行った施設を開催前に補修や掃除といった維持管理の活動を実施し、より維持管理に興味を持ってもらう活動を実施。
- ・今回つながった子ども育成団体とより密な関係構築をするとともに、他育成団体が協力関係になれないか模索する。
- ・継続的に活動できるよう運営資金を回収するチケット、商品の販売など、商品開発をしていくとともに、旧北国街道沿いの企業や店舗と連携し、マチナカ経済が活性化する連携施策を取り入れていく。



【イベント開催の様子】

【目標・ねらい】

- ① 旧北国街道沿いの寺社・蔵・宿場町の観光資源化、散策ルート確立・マチナカ経済活性化
- ② 寺社町家維持管理意識向上
- ③ 女性・若い世代の興味獲得

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・来場者、ボランティアスタッフ、出店者数が目標を上回った。
- ・地元の子どもの育成に関わる団体と関係がもて、子どもたちがお寺で出店体験する場が生まれた。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	シニアも活躍する岩村田の子どもの居場所事業
事業主体 (連絡先)	岩村田本町商店街振興組合 0267-54-8339 (寺子屋塾)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	3,847,377 円 (うち支援金 : 1,261,000 円)

事業内容

- ① 「あなたの自慢の講座」開設事業・・・「シニアが真ん中にある講座」
- ② 「シニアによる不登校、引きこもりのこどもたちへの寄り添い事業」
- ③ 「おいでなん処」放課後支援事業

事業効果

①「あなたの自慢の講座」開設事業・・・「シニアが真ん中にある講座」及び②「寄り添い事業」では137名の参加があった。

③「おいでなん処」放課後支援事業では1,430名、それに伴うイベント参加者250名の参加者があった。高校生のボランティアによる関りに加え、①の講座で参加したシニアが、③の事業にボランティアとして参加したり、居場所の余暇支援にシニアの任意団体が参加していただけたという、「多世代交流」の場を醸成できた。また、民生委員や自治会、包括支援センターとの連携も実現でき事業が地域全体で運営されるに至っている。

今後の取り組み

子どもの居場所の重要性は、年々利用者が増加することや、様々な課題解決の場となっていることなどから、地域にとって必須の機能であることが実証できている。また、シニアの居場所をどのように、多彩なものにしていくかは地域の課題であり、佐久市の課題でもある。これをどのように継続していくか、が課題となるが、商店街という社会資源を十分に活用した、「継続施策、」地元自治体との連携も強化しながら、速やかに実施することで解決していきたい。



【シニアのためのおいでなん処サロン】

【目標・ねらい】

- ① 「子どもの居場所」事業を軸にして、シニアの活躍の場、「シニアの居場所」を設ける
- ② 街の多世代交流の拠点化

※自己評価【 A 】

【理由】

本事業には、学校を始め、地域の様々な社会的な機関と連携して実施することが重要であるが、民生委員や学校、関連区との連携をとって実施できた。さらに地域に継続を期待されているため。

令和6年度 佐久地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ジモトのタツジン普及計画
事業主体 (連絡先)	公益社団法人佐久青年会議所 佐久創り委員会
事業区分	3 教育・文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,484,444 円 (うち支援金 : 1,063,000 円)

事業内容

佐久地域に対する愛郷心を育むためには、幼少期に家族で地域の名所や名物、伝統文化を体験し、アイデンティティを形成することが重要です。しかし、実際に家族で伝統文化を体験する意思を持った際に、どこでどのように触れることができるのかといった情報を得ることが難しい現状がありました。

地域の小さい子どもを持つ家庭へそれらを効果的に発信することを目的として、【見る】 【食べる】 【やってみる】 の3つのカテゴリーに分類することで見やすくまとめ、それぞれの項目ごとに学習ページと子供たちの自由な感想を記入するページを設けたノート、『ジモトのタツジン』を完成させました。

まちづくり事業として『ジモトのタツジン』の配布と、その普及および活用促進を目的としたイベントを開催しました。



【ジモトのタツジンがっこう】

【目標・ねらい】

- ① 佐久地域の文化に触れる機会を創り、家族との思い出と佐久地域の結びつけを生むことで、地域への愛着を生む。

事業効果

作成し配布した『ジモトのタツジン』を実際に使用した事例も多く聞かれ、佐久地域の文化に触れあう機会を創出できたと考えます。またローンチイベントでは多くの子どもや家族に図画工作や『ジモトのタツジン』への記入を通して佐久地域の名所や名物、伝統文化に興味を持っていただき、また触れていただくきっかけを創ることができました。事業当日は、多くの子どもたちに思い出と共に佐久地域へのアイデンティティを育んでいただけたのではないかと推察できます。以上の点から、事業目的に達したと考えられます。

※自己評価 【A】

【理由】
長野県立図書館への寄贈依頼や私立小学校への教材としての提供依頼があり、当初予定していた以上の地域のニーズがあったと考えるからです。

今後の取り組み

今回作成した『ジモトのタツジン』を配布する中で、子どもたちにとどまらず、移住者などの大人たちの手にもわたるようにしてほしいという声を数多く頂きました。地域の大人たちを巻き込みながら、佐久地域の活性化に寄与できる活用法を模索して参りたいと思います。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域いきいき スマイルマルシェ
事業主体 (連絡先)	一般社団法人軽井沢青年会議所 0267-46-1445
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (エ商業の振興)
事業タイプ	ソフト
総事業費	561,929 円 (うち支援金: 447,000 円)

事業内容

移住者と地元の方に対して、地域の魅力的な店舗や団体を知って頂く事で、交流人口を増やし、特に移住者に対しては軽井沢町・御代田町への愛着と定住を促せる一助とするため、「地域いきいき スマイルマルシェ」を開催した。

日時: 令和6年10月20日(日) 10時~15時

場所: 軽井沢町矢ヶ崎公園

参加者: 延べ500人

(うち一般来場者約400人、出店者・警察・消防・消防団・自衛隊・軽井沢ライオンズクラブ・ボランティア青年会議所関係者等約100人)



【 当日の様子 】

【目標・ねらい】

- ①移住者の方に地域の魅力を知って頂く
- ②交流人口を増やし、軽井沢に愛着を持って頂き、移住・定住の促進
- ③矢ヶ崎公園の活用

事業効果

①来場者アンケートより、「地域の新たな魅力・店舗を知れたか」参加者の「はい」目標数値80%→結果92.5%を達成、「地域の魅力的な団体に出会えたか」参加者の「はい」目標数値70%→結果92.9%を達成し、来場頂けた移住者の方に地域の魅力は知って頂けた。

②来場者アンケートより、「今後もこの地域に住み続けたいか」参加者の「はい」目標数値70%→結果79.7%を達成、「移住を検討している方にこの地域を進めたいか」参加者の「はい」目標数値70%→結果92.7%を達成し、イベントが移住・定住の一助になったと考える。

③近年、軽井沢町矢ヶ崎公園でこれほどの規模のマルシェイベントを開催出来ていなかったため、矢ヶ崎公園の活用の一助に貢献出来た。区長、区から選出の町議からも、実施した事で評価を頂けた。

※自己評価【B】

【理由】

- ・来場頂けた方の評価はおおむね90%を超える結果が多く、実施した事で目標・ねらいは達成
- ・来場者目標は2,000名だったため、イベント周知が不十分だったため。

今後の取り組み

イベントの定着・継続化を考え、8月27日に「軽井沢町内団体会合」を開催し、各団体の現状やニーズ把握を行った。各団体とも軽井沢を盛り上げていく活動をしているため、今後も会合等を開催し、各団体の垣根を超えた協働が出来るようにしていきたい。

イベントを実施する事で、来場者の満足度は高く、地域の魅力の発信や交流人口の増加につながる事が分かったため、今後も継続して交流イベントを実施していく。

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	軽井沢の「食」と「環境」をつなげる事業
事業主体 (連絡先)	軽井沢オーガニック給食を考える会 karuizawa.organic.kyushoku@gmail.com
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	519,670円 (うち支援金: 405,000円)

事業内容

1、軽井沢 Ecological Farm Stand の出店

(1)パタゴニア軽井沢ストアでの開催イベント

日時: 7/6 8/3 9/7 10/5

場所: パタゴニア軽井沢ストア

来場者数: 合計およそ500名

協力生産者数: 11件(2024年度)

内容: ・軽井沢町、佐久市の有機農家を作る農産物(加工品含む)の販売。

- ・量り売りによるプラゴミの出ない買い物の提案。
- ・生ゴミコンポスト展示。

(2)軽井沢町社協と共催する親子向け食育イベント

日時: ①8月4日 ②10月6日

場所: 軽井沢木もれ陽の里

内容: 町内親子を対象とし、地域の有機農産物を使った「味わう場」の提供。

①サンドイッチを作って食べよう! ②みそを楽しもう!

参加者: 軽井沢町の親子①46名(大人20名、子ども26名)

②26名(大人10名、子ども16名)

2、ボランティア団体として町内学校での出張授業実施

大豆プロジェクトサポート

時期: 2024年5月~2025年2月

場所: 軽井沢西部小学校

内容: 大豆の種まきから収穫、脱穀、選別、豆腐作りまでをサポート

※9月18日講師を招き、大豆の環境授業を実施。

3、対談イベント実施

日時: 1月19日

場所: 軽井沢発地市庭イベントスペース

参加者: 49名(大人22名、子ども19名、スタッフ8名)

内容: 講師に町内医師(学校医)、有機農家2名を招いての、食・心と体の健康をテーマにした講演及び対談を実施。有機農産物を試食しながらの交流会。

4、SNSを活用した情報発信(運用アドバイザーと連携)

SNS運用アドバイザーと連携したインスタグラムでの情報発信



【Ecological Farm Stand 出店】



【親子向けイベント】



【大豆プロジェクト豆腐づくり】

事業効果

- ①・パタゴニア軽井沢ストアでの開催イベントで、環境に配慮した有機野菜、それらを原料にした加工品の販売にこだわることで、環境保全と農、食へのつながりをPRできた。
 - ・親子向け食育イベントにて、軽井沢町作成こども向け「環境ハンドブック」の紹介により、軽井沢町の環境基本計画やハンドブックの存在を知らなかった家庭に知ってもらうことができた。
 - ・お野菜クイズ実施(野菜の花や種のクイズ)により、軽井沢で採れる季節の農産物について楽しく知ってもらうことができた。
 - ・小学校でのボランティア活動にて、単に野菜を育てることだけでなく、それがどのように環境に良い影響があるのか、子ども・保護者共に学ぶことができた。特に子どもたちの土壌微生物への関心の大きさがうかがえた。
 - ・対談イベント開催により、食と自然環境の豊かさが健康な暮らしにつながることを参加者が感じる事ができた。
 - ・全イベントを通して地元有機農家紹介パネルの展示をしたことにより、特に町内の方へ知ってもらうきっかけとなった。
 - ・イベント開催を通して、参加者の地元産有機野菜への購買意欲向上、有機農業への理解を深めることができた。



【対談イベント】

- ②・パタゴニア軽井沢ストアでの開催イベントで、地域の新鮮な有機野菜を販売でき、小規模なマーケットながらおよそ合計500の来場者があり、観光客・地元住民へ美味しさを知ってもらうきっかけとなった。
 - ・親子向け食育イベントでは、72名の参加者があった。それまで地元の有機野菜を知らなかった、食べたことがなかったという親子連れに楽しく美味しく味わってもらう場を作ることができた。
 - ・小学校でのボランティア活動において、無農薬・無化学肥料で育てた大豆で作った豆腐を作り、親子共々美味しさを実感できる場となった。
- ③・パタゴニア軽井沢ストアでの開催イベントで、プラスチック包装なし、量り売りを実施することで、ゴミを出さないお買い物方法を徹底できた。売る側、買う側ともに環境を意識した気持の良いやりとりができた。
 - ・7~10月まで月1回開催することで、認知度が上がり地元のリピーターが増加した。
 - ・有機野菜を購入できる場を求めている消費者も予想以上に多いことがわかった。また、特に高齢の方は、そのような情報を手にいれる術がないという課題の抽出ができた。

【目標・ねらい】

- ①「食」を通して軽井沢の環境保全の機運をつくる
- ②軽井沢産有機農産物の美味しさを消費者に伝える
- ③環境にやさしい買い物について啓発する

※自己評価【A】

【理由】各イベントを通し、予想を上回る参加者があり、「食」と「環境」のつながりの大切さを知ってもらうことができた。また食の安心安全や環境問題、子どもの食、農に関心のある方たちとの新たな繋がりができた。

今後の取り組み

今年度の事業を通して、ファーマーズマーケット・食育イベント・学校等でのボランティア活動は継続していく必要と一定の事業効果を感じたので、来年度も協力者を増やしながら取り組んでいきたい。

また、今年度抽出できた課題

- ・地元の有機農業、有機農家の存在をまだまだ知られていない。
- ・有機野菜を買える場、地元有機農家の情報を周知できていない。情報が取れず困っている人がいる。

などからも、新たに軽井沢町内に関わらず、近隣地域の有機農家マップの作成にも取り組みたい。